



フヒヒ、大丈夫だよ。ちゃんとお金は払うから。
ゆっくりと堪能させてもらったあとでね……

生徒会長の 借金返済記

～私のHな身体を買ってください！～

『本当にいいんだね?』

『本当? これから君の身体を、ボクの自由にするんだよ?』

『本当……です。お金くれるなら、私……』

(考えただけで嫌……だけど、借金返済のため……)

『……はい、大丈夫です』

『でも、この学年で一番ブサイクなボクが、

あこがれの京子さんとできるなんて……』

『あの……でも、お金……』

『フヒヒ、大丈夫だよ。ちゃんとお金は払うから。

ゆっくりと堪能させてもらったあとでね』

すわ

すわ



「あつ……」

『温かい……！ それに柔らかいね……』

（やつ……気持ち悪い……）

『ん？ 足が震えてるよ？ もしかして緊張してる？』

（怖い……怖い……好きでもない人が、私の身体を……）

「……いいえ……」

『ふふふつ、いいんだよ。気持ちよくなつて』

『べ、別に気持ちよくなんならなくても……いいです……』

『そう言っただけでいられるのも今のうちだよ。』

『すぐに気持ちよくしてあげるからね』

（ううっ……気持ち悪い）

（もう嫌……ここから逃げ出したいよ……）

（**だけど**、お金のため……私が我慢しなきゃ……）

『ねえ京子さん。なんでこんなことしてるの？』

「……お金が欲しいから、です」

『でも君の家、大企業の社長さんじゃないか。必要あるの？』

「そ、それは……」

『なんてね。実は知ってるよ。君の会社、事業に失敗したんだろ？』

「えっ……どうしてそれを……？」

『業界では有名な話だよ。だいたい借金があるんだろ？』

「……はい」

『親の借金を返すため、娘が身体を売る……』

『素晴らしいじゃないか。しっかりと愉しませてくれよ。』

「は、はい……」

『ほら、何ぼさつとしてるんだ。ボクのも気持ちよくするんだ』

(い、嫌……こんな汚いの触りたくない……っ)

(嫌……だけど……怖い……けど……お金のため……)

『できないの？ お金あげないよ？』

『ほら、こうやって、ここを持って』

(熱い……それに固い……)

(びくびくしてる)

ひびひび

すー

すー

『ああ……京子さんの手、すごく柔らかいよ』

『それに震えてるね。まだ緊張してる？』

『ほら、触るだけじゃなくて上下にシゴいて』

『シゴく……？』

『しっかりチンポをつかんで、上下に動かさうってことだよ』

『こ、こう……？』

『んんっ……いいよ。気持ちいいよ、京子さん』

(手を動かすたびに、びくびくって大きく動く)

(これが、男の人の……)

『興奮してきただろ？ ほら、君のもよく見せて』

『やっ……』



「やっ……見ないで……誰にも、見られたことないのに……」
「ぐふふふつ。こうやってお互いの性をまさぐりあって、
まるでボクたち恋人だね」
「な、何言っているの？ 私、別にあなたのこと……」



「ほら、気持ちいいだろう？」
「んあっ……ゆ、指いれちゃっ……」
(こんな人の指が、私の中に……痛い……怖い……)
「京子さんの指、温かいよ。それにヌメヌメしてて、柔らかい」
「いやっ……痛っ……やめてっ……」
『大きな声出すなよ。人が来るだろ。そんな声出すなら、塞いじやうぞお』

「んんっ？ ふわっ……んんんんんっ！」
『京子さんの唇、柔らかい』

(キスはしないって約束だったのに……！)

『京子さんの舌おいしい……京子さんの唾液、おいしい……』
(し、舌が入ってきて……)

(気持ち悪い……！ それに苦しい……)

『んんぢゅっ……ぢゆるるるるっ……』

『京子さんも、ボクの唾液味わってね』

(やつ……なに、唾液が入ってくる……！)

(飲みたくないのに、舌で押しつけられて……)

「んっ……んんんっ……んあっ……くっ……」

『そうそう。たくさん飲んでね』
(気持ち悪い……気持ち悪い……)
「んあっ……うっ……んちゅっ……」
『それにしても京子さん、おっぱい大きいね……』
「そんなに強く触ったら……」
「ん？ あ、そうか。ブラジャーで痛いんだね。だったら……」



男子生徒は制服をまくし上げ、ブラジャーを外します。

(勝手に……やあつ……)

『これで京子さんのおっぱいを堪能できる』

『やつ……あつ……触らないで……』

『乳首が感じるの？ ほら、これはどう？』

(うう……こんな人に……私、いらいようにされてる……)

『おおっ、すごい！ 京子さんのおまんこ……どんどん濡れてきてる』

『やつ、そんなわけ……あッッッ！』



ん♡

あつあつ♡♡♡♡♡

あつあつ♡♡♡♡♡

あつあつ♡♡♡♡♡

(気持ち悪い……気持ち悪い……っ)

『あぁっ、京子さん。そろそろボクもう……』

『えっ……なに……？』

『ボクもうそろそろいつちやいそうだよ』

『イ、イクって……？』

『ほら、激しく手でチンポをシゴいて』

(早く終わって……こんな悪夢、早く終わってしまっ……っ)

うんうん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

『めめ……ちんぽ、良し、京子さん』
『京子さん……京子さん……京子さん……』
(おっ、きより、びくびくが大きくなって……っ)
『京子さん……イクっ……』

「いやあッ！ な、何これ？ こ、これ……精液？」

「ふう……京子さん、すごく良かったよ」

「……………」

「こんなにたくさん出たの初めてだよ。京子さんが絞り出したんだよ」

「……………」

「京子さん……泣いてるの？」

「……………」

「ほ、ほらこれ、約束の代金」

「……………」

「払ったからね。ちゃんと代金払ったからね。だからボク、悪くないからね」
（うう、私、汚れちゃったよ……こんなこと……ずっと続けるの？）
（でも、借金返済のため……お父さんとお母さんのため……）



「おっ、来た来た」

「近くで見るとマジ可愛いよなー」

「あの……」

「そうそう。俺ら君を買うの」

「大丈夫。俺たち個々で払うから、料金は2人分だから」

「いえ、そうじゃなくて、2人一緒にするんですか？」

「良いじゃん、3P」

「それに一気に終わるからそっちが楽なんじゃない？」

「お金欲しくないの？」

「……やります」

「借金苦つてのは本当だったらしいな」

「それじゃ、遠慮なく買わせていただきますか」

『おっぱいでけえっ。会長がこんなエロい身体だったとはね』
『だけどマンコはピンク色だぜ？ 経験浅いんじゃないの？』
(やつ、そんなとこ、見ないでえ……)
『おっ？ もうマンコ濡れてきてんじゃないん？』
『本当はやりたいたいだけなんじゃね？』
『ヤ、やるって……』
『可愛い顔してH大好きかよ。たまんねえな』

「私、別にそんなんじゃない……」
「ほら、やるうぜ」
「だめ。で、手でしてあげるから許して……」

「いまだき援交で手コキだけってありえないっしょ」
「金、ほしいんだろ？ だったら俺たちを楽しませるよ」
「そうそう。追加料金弾むぜ？」
(お金……もつとくれるんだ……でも……)
「ほら、ウダウダ言っつてねーでさっさとやらせる」
「いやあッー だめえー！」



「い、痛い……痛い、やめて！ 痛い……！」

「ごいつ……まさか処女？」

『マジかよ。会長の処女いたいちまつたぜ』

(ご、こんな……こんなトコで、私の初めてがあ……)

『よーし、動くなー』

「やう……痛ら、痛ら……」

『くっ……マツをきつらな、会長のマンコ……チンコに吸い付いてくるぜ』

「痛っ……あ、ああっ、んあっ」

『痛いと言いながら感じてるじゃないか』

「そ、そんなんじや……んっ、ひうっ」

あは



『締め付けヤベツ……つく！イクウ！』

「らやあぁーッツ……」

(中……熱いの、注がれてる……)

(びくびくって、中で……やだ……妊娠、しちゃう……)

『ふう……気持ちさらら』

ビュル
ブルル
ルルル

びく

おん！おん！早く代われよ。俺の番だ
そんな……やだ……

『こいつだけSEXさせてずるいだる。今度は俺の番だ』

『俺もまだ足りないな。回でしてくれよ、会長』

『や……私、もう……』

『ほら、言うとおりにするんだよ』

「んんっ……むううっ……」

(苦しい……息、できない)

(それに生臭くて……いや……っ)

『会長の中、マジで最高だぜ』

『だる？ 口の中も気持ちいいぜ』

『会長、動くぞー？』

「んう、んんんっ……」

(同時に……おちんちん、入れられてる……っ)

(上からも下からも突かれてる……)

『ほら、もっと舌動かせよ』

「んんっ……ちゅぶっ、じゅぶっ……」

(いやらしい音、出ちゃってる……)

(やだ……私、エッチじゃないのに……)

(こんなの全然嫌なのに……)

『最高だぜ会長』

『すけべな身体して、生徒会動かしてたのか？』

『生徒集会の時はマン汁でびちよびちよだったんだろ？』

『大勢に見られて興奮するなんて変態だな』

(そんなんじゃない……ない、のて)

『くっ……やべえ、俺、そろそろ……』

『俺もやべえ。さっきイっただばかりなのに』

『おい会長ー。中でイクぞー。ちゃんと受け止めるよ』

『俺は口の中だ。しっかり飲めよ』

(やっ……やだっ……そ、外に……)

(2人のおちんちん、回くなって……)

『くっ……いくっ……』
『うう……イ、いくっ……』
(んんんんーっ！)
(口とおそこだ、熱いのが……)
「んんぐっ……けほっ、いほっ……」

「ほら、チンポに付いた精液までちゃんと舐めとるんだよ」
「んんっ……さあさあさあさあ……」
「すげえ、まだ出てる……会長のマンコに精液吸い取られてるぜ」
(うう、し、子宮に……口で……あ、熱いのがたっくん……入ってくる)



「うう……あうう……うう……」

「会長膝ガクガクじゃねえかよ。感じてるのか？ 淫乱だな」

「会長、マジ良かったぜ」

「そ、そんなこと……うあ……せ、精液があ……たれちゃう……」

「見るよ。上の口からも舌の口からも精液垂らしてるぜ」

「下淫乱だな、会長。生徒に見せられないぜ、そんな姿」

「ほら、これ約束の金な」

ド
ガ
ッ

ホ
ン

ホ
ン

「こんなんでやれるんなら毎回してえ」

「会長、またよろしく頼むよ」

男子生徒は去っていききました。

残されたのはお金と、白く汚された私。

(初めてが奪われて……)

(それに、精液でドロドロに汚されて……)

(こんなのもうやめたい……でも、借金はまだまだある)

(いつまで続くの、こんなの……)



『うわっ、本当に来たよ』

『会長が売りしてるの本当だったんだな』

『これからこの身体を好きにできるのかよ……たまんねえな』

待っていた3人は、私の身体を舐め回すように見てきました。

(そんなに見なくても……)

(すごい……私のおっぱい、食い入るように見つめてる……)

(私の身体、そんなに魅力的なのかな……)



「うわぁ……たまんねえ……」

「うっ……いきなり触ったら……んんっ」

「俺にも触らせるよ……柔らげえ」

「んんっ……やっ、あっ……」

「ピンク色の乳首かよ、マジヒロいな」

「それに良い匂いだぜ……肌もすすすすだ」

ひとしきり男子生徒2人が私のおっぱいを堪能した後、
もう1人の男子生徒が何かを取り出しました。

『おいお前、それって……』

『普通にやってもおもしろくないだろ？』

『あの……それ、なんですか？』

よっ♡

ブ
ブ
ブ
ブ
ブ

ブ
ブ
ブ
ブ
ブ

『知らないのか？ ローターだよ』

『ロー……ター？』

『見たことないのか？ だとしたら尚更愉しみだな』

『いわゆる大人の玩具ってやつだ』

『大人の玩具……？』

『ああ……これでお前も大人の仲間入りだな』

「んあ……っ!？」

「はははっ、こいつのけぞりやがった」

「そんなに気持ちいいのか？ ローターは？」

(なにこれ……小刻みに震えて、乳首が……っ)

「んんっ……んあっっ……やっ……んんんんっ」

(やだ……身体に力、入らない……)

「いやらしい顔してるな、双葉」

「いつもは涼々しい生徒会長さんがこれかよ」

『こんな表情……さっさからチンコがギンギンだぜ』

はぁっ♡

ブッ
ガッ

「やめて……こんなの、やだよお……」

『口と身体が食い違ってるぜ?』

『こんなに身体が快感を求めて反応してるじゃねえかよ』

『ほら、もっといやらしい顔しろよ』

(こんなの……いや……っ)

(だけど、さっさから身体が熱くて……)

「んんんっ、あうっ、んんんんっ……」

「何か……なにか来ちゃう……」



『たくさん突いてやるからな』
『あつ……んんっ、やつ……そんなに……あうううっ』

『ほら、俺たちも気持ちよくしろよ』
『手でチンロをシゴくんだよ』

(こんなに近くにおちんちん……)
(生臭い……やだ……)

はぁ♡
はぁ♡
ブブブブブブ
ブブブブブブ
ブブブブブブ

ガッポ♡
ガッポ♡

『おい京子、気持ちいいか?』
『そ、そんなこと……んんっ、はうっ……』
『身体は正直のようだぜ。認めるよ……』
『き、気持ちよくなんか……んんっ、やつ、あうっ……』
『やれやれ、意固地な会長さんだ』



『ヒビ、大好きな玩具つかっても、強気でいられるかな』
『やつ、あっ、んんっ、あっ、ひううううっ！……！』
(頭……白くて……何も考えられない……)
『はははっ、やっぱり身体は正直だな』
『見るよ、会長のマン汁あふれ出してきたぜ』

『玩具によがってこの様かよ』
『そ、そんなんじや……あうっ、んんっ、んんむっ……』
『くっ……そろそろイクぞ……』
『やだ……中は、やだ……』
『んっ……イクっ……っ』



「やあっ……中に、出てる……」

（中に吐きだされちゃった……）

（精液……熱いの……たくさん出てる……）

（私の中で、何度もビクビク動ってる……）

「……ふうっ、気持ちいいぞ」

「おいおい、お前だけずるらぞ」

「今度は俺たちの番だ」

「もう……終わりにして……」

「まだまだ。俺たちはまだ満足してねえ」

「満足しなくちゃ金は払わねえぞ」

「いやあ……やめて、もうやだも……」

「あうう……うう、もうやめれえ……」
「ふう、流石に犯し過ぎて大人しくなったな」
「会長のやつ、一番多くイったんじゃないか？」

「マジかよ。俺たちより多くイってるぜ」
「自分が一番愉しんでるじゃん、会長」
「借金返済なんて名目で、淫乱なだけじゃね？」
「マジかよ、興奮するな」
「それにしても精液まみれの会長、エロいな」
「ああ……当分オナネタには困らないな」
「それじゃ会長。またよろしくな」

どろろ



「んっ……らや……声、出ちやう……」

「本当に水着で来てくれたんだな双葉……嬉しいよ」

「あッ！ だめ……強くしちや……」

(こんなに密着して……恋人同士のエッチみたい……)

んっ……んっ……んっ……んっ……んっ……

ズッ
ズッ
ズッ

「動く度に双葉のおっぱいを揺られてエロいな」

「やだ……そんなこと言わないで……んんんっ」

「双葉はお尻もエロいな。すすすすして……んんんっ」

「んんんっ……んんんっ……お尻、触るの……んんんっ」

「あぁやええ……腰、止まらなら……」

「双葉の身体を今、俺は独り『め』してゐるんだ……」

「この身体……もうとまうと犯してら……」

「なあ双葉……気持ちさらならな？」

(なんて言えたらんだらう？)

(気持ちさらって言えは、早く出してくれるのかな……？)

「うん……気持ちさらす……」

「俺どのSEX気持ちさらのさ？」

「うん、どつても……みんな、気持ちさらさ……」

「授業中なのさ……みんな、授業受けてるのさ……」

「それなのに、SEXして……気持ちさらさ……」

(腰の動き、どんどん早くなってきて……)

(エッチな事言うて、興奮するのかな……？)

(言うの嫌だけど……早くいってしまえな……)



「あーっ……あーっ……」

「京子をたぐさる……」

「京子を……あーっ……あーっ……」

「双葉……あーっ……あーっ……」

「……」

「中……中……」

「やっ……中……ダメ。お願……」

「へっ……それなら、かけて……」

「か……？……」

「お腹……その水着……」

「はっ……」

「双葉……双葉……」

「へっ……」



「いやぁ...あ、熱い...」

「気持ちよかったよ、双葉」

「...ええ、よかったです」

「また、お願いしてもいいかな?」

「...です」



「おい、金を払えるやつただけだぞ。金のないやつは見てるだけだ」

「ちえつ、小遣い前借りすれば良かった」

「見てるだけでも……興奮する」

「ほら、さっさと水着脱げよ」

「いやいや、水着は着せたままだ。ずらしてマンコとおっぱいを露出させる」

^^^
^^^
^^^

はよっ
♡

(どうすればいいんだろう……)

「まずは俺と一発やるうぜ」

「えっ……そんな、いきなり……」

「時間がないんだ、仕方ないだろ」



「んあっ……」

「たまんねえ……これが会長のマンコか」

「ああっ……ううううっ……」

「よし、動くぞ」

「そんないきなり……ああっ……んッ！」

『どうだ？ こんな大勢の前でのSEXは』

（やだ……みんな、私のこと見てる）

（恥ずかしいところまで見られてる……）

（いや……見ないで……）

（こんなに大勢に見られて、私……）

（頭の芯がしびれて……）

（こんな感じ、初めて……っ）

「おい、マンコびしょびしょじゃないか」

「そんなこと……」

「大勢に見られて感じてるんだろ？」

「ちがうっ……違いますっ……」

「見られて感じるなんて、とんだ変態だな」

「変態会長か、良いな」

「双葉は淫乱」

「SEX狂いの京子ちゃん」

「ピッチだな、双葉は」

~~~~~

^^^

グ

グ

グ

「見るよ……あんなにチンポ啜え込んでるぜ」

「今まで何人のチンポを飲み込んだんだらうな」

（みんな、勝手なことばかり言って……）

（ん……だめ、力が入らな……）

「おい、1人だけずるいぞ」

「そうだ。授業時間は限られてるんだぜ？」

「金払うんだから、俺たちにも良い思いさせろよ」



(こんな……体中触られたら私……!)

『おっほいでけーっ』

『乳首立ってるぜ、こいつ』

『クリも勃起してて、マジでビッチだな』

(身体が……熱い……)

ハハハ

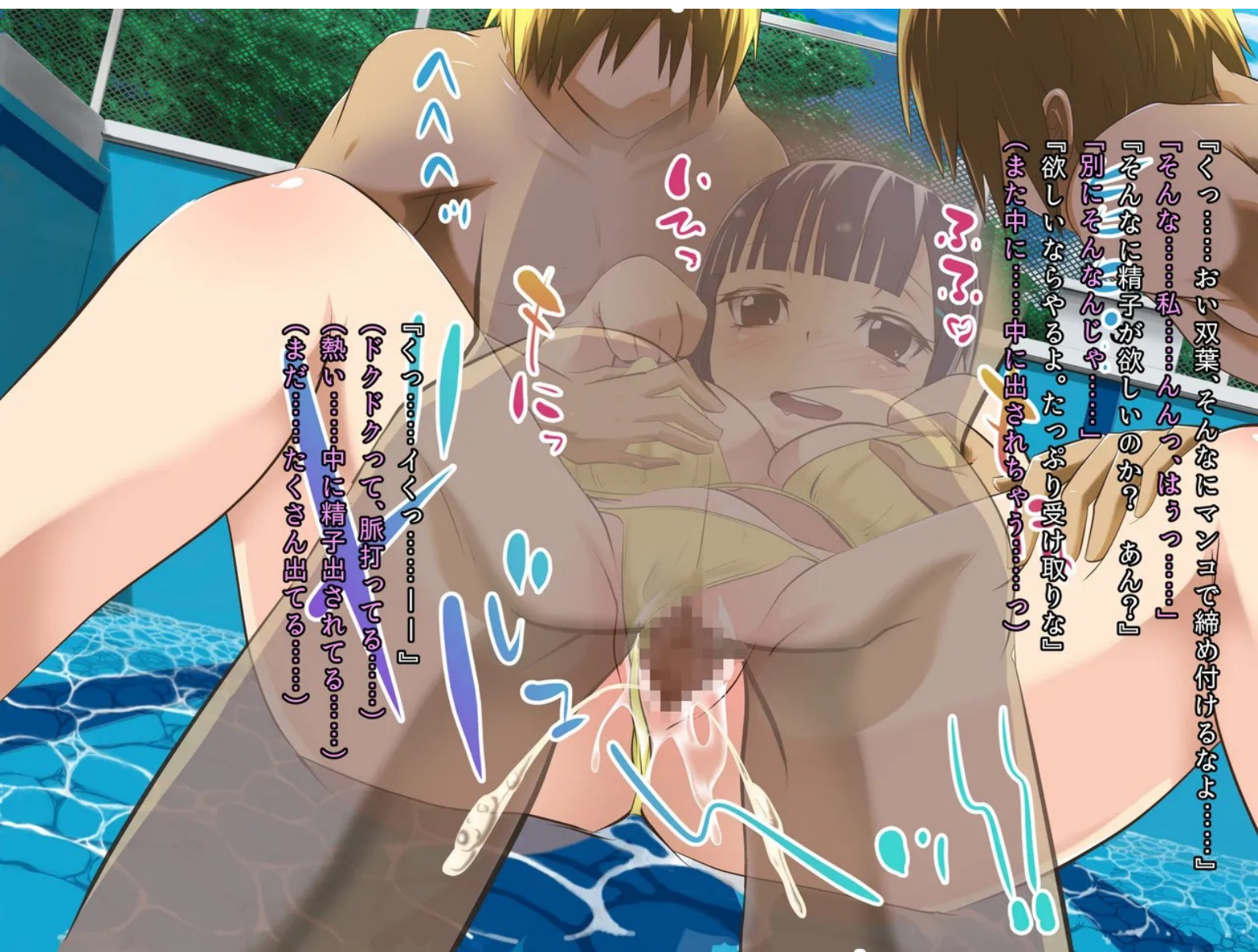
ハハハハハハ

ハハハハハハ

グハハハ

グハハハ

グハハハ



『くっ……おい双葉、そんなにマンコで締め付けるなよ……』

『そんな……私……んんっ、はうっ……』

『そんなに精子が欲しいのか？ あん？』

『別にそんなんじゃない……』

『欲しいならやるよ。たっぷり受け取りな』

『また中に……中に出されるやう……っ』

『くっ……イっくっ……』

『ドクドクって、脈打ってる……』

『熱……中に精子吐かしてる……』

『まだ……たくさん吐てる……』



「よし、次俺な」  
「違う、次は俺の番だ」  
「俺だってもう我慢できない」  
「ボクが一番お金を出すんだ、ボクが優先だろ」  
「仕方ない……時間もないし、全員同時にするか」  
「そうだな。いいだろう？」 双葉  
「はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……」



「苦しげ……それなら、これも禁じ……」

「マンコの中気持ち……すんごいっつっちゃらそうだ」

「口もすげえ……手使の最高っ」

「手もいいぞ。ツボをちゃんと分かってるせいでっ」

ズキキ

ハァーハァー

オハハハ

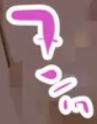
ズキキ



「歩くマンコだよな。就職先は風俗店か？」

「どうすれば気持ちいい……」

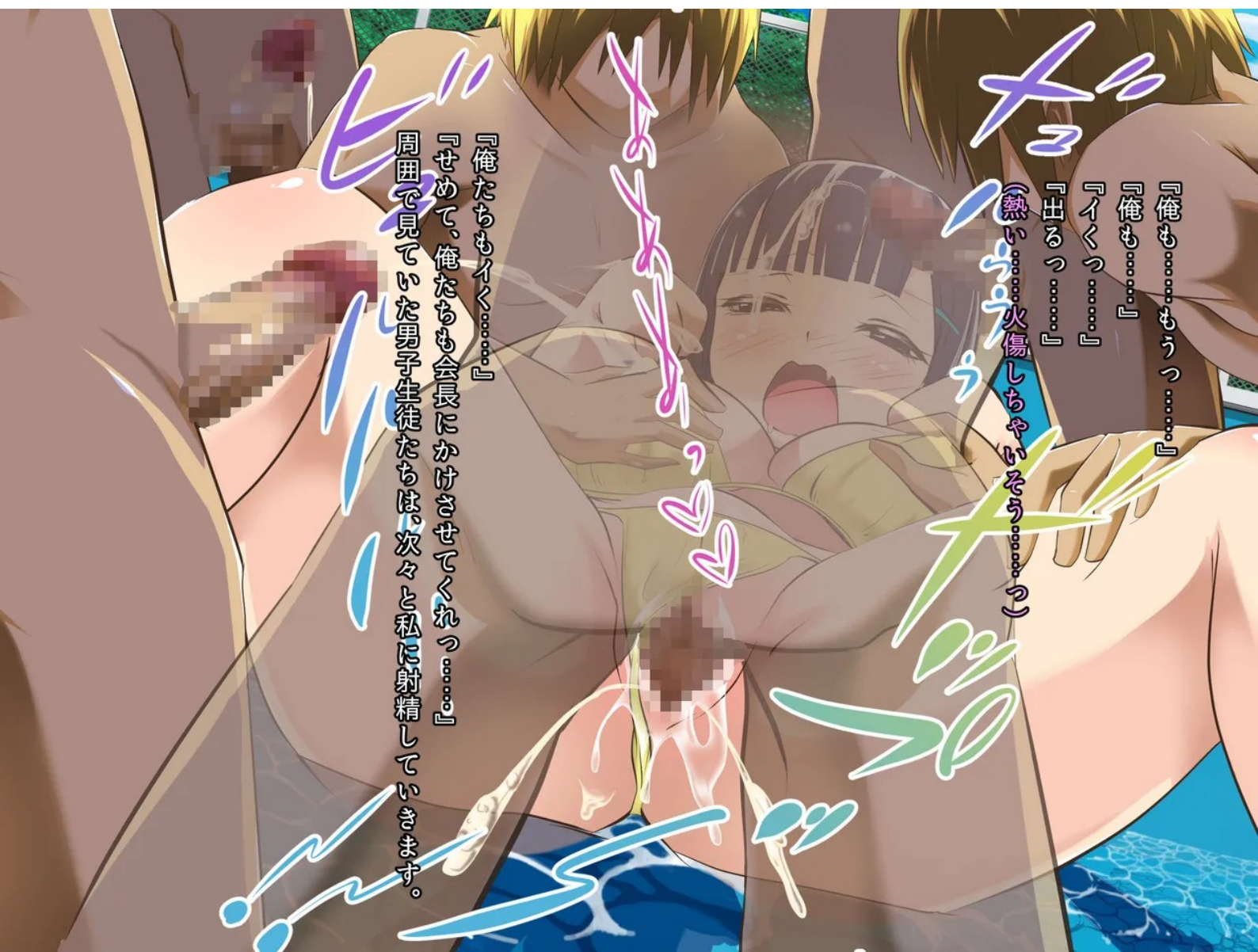
「ちゅぶっ……ちゅるるるっ……んっ、あんっ……」



『やべえ……俺、もういつちやいそうだ』  
『お前もかよ……時間ないし、イこうかな』  
『金がなくても、会長の痴態を見ながらオナニーできるなんて最高だな』

『見てるだけでもこの興奮……会長と実際にやったらすごいんだろな』  
『くそっ……俺の右手が止まらないー』  
『よし……ラストパートだ』  
『くっ……もう、ダメだ……イクっ……』





「俺も……もうっ……」

「俺も……」

「イクっ……」

「出るっ……」

（熱い……火傷しちゃらそう……）

「俺たちもイク……」

「せめて、俺たちも会長にかけさせてくれっ……」

周田で見ていた男子生徒たちは、次々と私に射精していきます。

(こんなの……私、精液の掃き溜めみたら……)  
(全身精液まみれ……臭いがすげえ……)  
(水面にも精液がたためたってる……)  
(これ全部、私に興奮して……)

はぁ……はぁ……

はぁ……はぁ……

はぁ……はぁ……

「精液くせーっ」

「そんなこと言うなよ、会長はその精液まみれなんだぜ」

「学園の性処理便器だな、こりゃ」

「好きなときに好きなだけか……安いもんだ」

「そろそろ授業も終わりだな」

「それじゃ解散としますか」

「会長、またよろしく頼むな」

「はぁ……はぁ……」



「ひやはは！ 思ったよりエロいじゃん」  
「会長、似合っつてよ〜」  
（みんなの視線が、私の身体に集まってる……）  
「すげえ、みるみる濡れてくるぜ？」

「この状況で興奮かよ。変態じゃね？」  
「おっぱいもでかくてエロいな」  
（言われる度……気持ちいい……）  
（腰が、勝手に動いちゃう……）

たっかん

んんん  
んんん



「やっ……んっ、あうっ……」  
『喘ぎもエロっ』

『水音がやらしいよな』  
『見ろよ、あんな激しく擦りつけてるぜ』

「やあ……見ないで……」

『って言いながら、見て欲しいんだろ』

『ほら、見てやるからイけよ』

『俺たちの前でイっちまえ、会長』

（また……また、来ちゃう……）

（こんなに大勢の前で……イっちや……）



「んんっ……んんんんんんんんっ……!!」  
『本当にイッたぜ、会長』  
『マジでエロ女だな』  
『よほど気持ちよかつたんだろ、公開オナニーがよ』  
『会長……おい、大丈夫か?』  
『さて次は、俺たちも楽しませてもらおうかな』



(やっ……今いったばかりなのに)  
(そこ触ったら……)

「ん……」

「こいつ、またイキやがった」

『どれだけエロいんだよこいつ』

「俺もうだめ……」

「こいつ、自分でチンポシユリだしたぜ」

「無理ないぜ、会長がオカズだぜ？」

「なら俺も」

「俺も」

(私のおまんこ見ながら……みんな、オナニーしてる)

(そんな……この光景を見ただけで……)

「んんう………」

「会長またイったぜ？」

「俺たちのオナニー見て興奮してんじゃね？」

「お望みなら、もつとイかせてやるぜ」

「……はあ、もうイきそうだ」

「早漏かよ……ま、俺もイきそうだが」

「せっかくだから、会長さんに味わってもらおうぜ」

「そうだな。精液まみれでイつてもらおうぜ」



「おらあ！ 全身で受け止めやがれ！」

「ふああー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！」

（精子かけられて……私、また……）

「何回イってるんだよ、この女」

「こんなに淫乱だとは知らなかったぜ、会長」

「よし会長。今からお前は、剣道部の性処理係な」

「おお、いいね。会長肉便器」

「そんな……そんなのって……」

「ぼらされたくないだろ？ 淫乱会長？」

「放課後は毎日、部室集合な」

「大丈夫。毎日輪してやるからな」

『おらっ、奥までしっかり啜えこめよ』  
(んんっ……………く、苦しい……………)

『会長のロマンコ最高だな。普通の女とは吸い付きが違う』  
「ぐっ……………ほっ、ちゆるっ、こぶっ、んんぐっ……………」

(おちんちんで口の中いっぱい……………)  
(喉も痛いし、顎も疲れてきた……………)

(こんなの苦しいだけ……………のはずなのに)  
(どうして……………どうしてか、す……………おまんこが濡れる……………)

(お口の中も……………気持ち……………)





『おらおらっ、もっと気持ちよくしろよ』  
「ぐおっ……んんっ……んんんっ……」  
（どんどんおまんこ濡れていく……）  
（触ってもないのに、熱い……）  
（こんなのおかしいよ……）  
（気づかれないようにしなくちゃ……）  
（私、本当の変態だと思われちゃう……）

『くっ……そろそろイクぞ。いいか？ 全部口で受け止める』  
（口で……精液を全部……）  
「んんん……んーっ」



『うっ……いくっ……』

「んんっ……んんんんんんっ……」

(おちんちんが口の中で暴れてる……)

(苦い……精液出してる……)

(びゅっびゅっって、射精してる)

(熱い……精液すごく熱い……)

(でも、全部受け止めなぐちや……)

(溢れそうなくらい、多すぎ……)

しんぷん?

んん

んん

んん

X  
んん  
んん

『……ふう……会長、ロマンコで全部受け止めたか？』  
(……とっても苦ら……)

『よし、じゃあ口の中でしっかりと味わえよ』  
(味わう……精液を?)

『口の中で唾液と混ぜ合わせるんだ』  
『まさか、言うことと聞かないなんてことはないよな?』



「んんっ……んんっ……」  
言われるがまま、口の中で精液を動かした。

(うう……口の中で泡立ってきた……)  
『それから、口全体に……口をゆすぐみたいに動かせ』  
「んむっ……」

(回いっぱい精液……臭いが……んんっ……)



「よし、それじゃ飲み込むんだ」  
「んんっ……んっくっ……ごっくっ……ごっくっ……けほっ、けほっ」  
(精液の臭い、とれないよ……)

「どうだ？ 美味しかったか？」  
「……………」

「美味しかったか聞いてるんだが？」  
「……はい……とっても美味しかったです」

「ちそうさまは？」  
「ちそう……さまでした」

ふんはよ♡

うっ

「おい、次は俺たちの番だぜ」  
「んぐっ……んんんっ……」  
「んおっ？ こいつ、チンポに吸い付いて来やがる」  
「こいつ確か、借金返済のために仕方なく……じゃなかったか？」  
「そのはずだが……こりゃあ、生まれつきの淫乱だろ」  
「んんっ……そんなんじゃ……んあうっ……ひゃうっ……  
ちゅぶっ……」

「おいおい、嘘が下手だな会長さんよ」  
「マン汁溢れ出てるぜ？」  
「ちんぽ狂いの会長とは……どうなってんだらうね、この学園は」  
「いいじゃねえか、会長自ら性欲処理してくれるなんて  
いいじゃねえか」





(おちんちんで口の中いっぱい……)

(息、できないよ……)

(息できなくて苦しい……なのに……)

(苦しいのに……気持ちいい……)

(私、おかしくなっちゃったのかな……)

(おちんちんで気持ちよくなって……)

(苦しいのも気持ちいいよ……)

「俺もうイきそうだ……」

「おいおい、もうかよ？」

「こいつの口の吸い込みすごいんだって」

「わかったよ。さっさとイけよ」

「この可愛い顔を汚してやるからな……うっ……」

ふんふん

ふんふん

うっ

うっ……♡



(か、顔に……っ)

(顔にたっぷり精液がかかって……熱い……)

(この臭い……んんっ……)

「べろっ……ちゅっ、ちゅぶっ……」

『こいつ、頼んでもないのにお掃除フェラしてるぜ』

『マジかよ……真性の変態だな』

「んんっ……ちゅっ、ちゅるっ、ちゅるるるっ、ちゅばっ……」

『精液……美味しかったか?』

「……は、は……」

「……んんっ……」

「……んんっ……」

「……んんっ……」

「……んんっ……」

「……んんっ……」



(私、なんでこんなこと……)

(でも、精液って苦いけど……)

(あ……顔にもまだ、たくさん精液残ってる)

「べろっ……んちゅっ、ちゅるるるっ……」

『おいおい……顔射した精液全部飲んじまったぜ』

『そんなに精液が好きなのか……?』

(やあ……違う……違うの……)

(頭の中……真っ白で……もう……私……)

(でも……私、どうして……)

(こんなにエッチになっちゃって……)

いっけっ

ん

ん



『しっかり奉仕してくれよ。報酬はたっぷり、弾むからな』

「ふあい……分かりました……」

「先生のおちんちん、私のおまんこにください」

「もう耐えられないんです……おまんこが切ないんです……」

「先生のおちんちんで、満たして欲しいんです……」

「おちんちんで突いてほしんです……」

「だから……お願いします」

『そうか……そんなに欲しいか。望み通りにしてやるう』



「んんっ……あぁっ……」

『さすがにきついな。ぬすむすだ』

「太くて……固いです……先生」

『くっ……動くのもきついな』

「いやです先生……動いてくださる。たくさん突っ込んでさっ」

『ああ、分かったよ……』

「あんっ……あっ……先生のが中でかき回してる……」

「私のおまんこ押し広げられてる……」

「すごい……きついの、気持ちいい……っ」

「出し入れする度に気持ちいいの……」

「先生……もっと、もっとお願いします……」

『くっ……双葉くん……締めすぎだよ……』

「だってもっと欲しいんです。お願いします」

『こんなに締められたら……もう……っ出る……っ……』

(中に……先生の精液が出されて……っ)

「んんっ……やあっ……んんんんん……」

(先生と一緒に、いつちゃった……)

(どうして……中に精液出されたの……なんだか嬉し……)

(中出して……幸せ……)

『くっ……すまん、双葉くん。中に出してしまった』

『いえ、いらんです先生。それより……もっとして……だめだめだめ』

『このままもう一度から？』

『はい……だめ、ですか？』

『いや、望むところだよ。動くよ』

「んんっ……あっ、んんっ……気持ちさら……」





(やだ……腰、勝手に動いちゃう……)

(でも……すぐく、気持ちさら)

(気持ちよくて感じちゃう……)

「先生……もっと……もっと……」

「先生の回りのもっととつらてくださら」

「京子のおまんこ突いて……んんん」

「たくさん突いて……んんんん」

「いったのかい、双葉くん」

「はい。だって……気持ちよすぎて……」

「いきたいとき、いきただけイっていいからね」

「はい……ああっ……」

「んんんん……んんんん……」

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん



「また、またいつちゃう……」

「んんんっ……んんんんんんっ……」

「よくイクね、双葉くんは」

「先生のが気持ちいいからです……んんあっ……」

「また……またいきそうです……」

「たくさんいきなさい」

「んんっ……いつちゃ……いつちゃ……あああ……」

「んんんんんんっ……」

『くっ……すごい締め付けた……っ』

『双葉君、またいつてしまっそうだ……』

『先生……出してくださ……』

『京子のおまんこ、中出ししてください……っ』

『わかった……イクぞ……イク……』



「先生のおちんちん……京子の中で暴れてる……っ」

（先生の熱いのが……中に注がれていくっ……）

（また……また、イっちゃう……）

「あっ……あうううっ……んんんんんっ————っ——」

「うっ……絞られる……っ！」

「ください……先生の精液、全部ください……」

『ああ……君が全部搾り取っているよ……』

「先生の精液……京子のおまんこで搾り取ってる……」



『双葉くん。すごく良かったよ。ほら、今回分のお金だ』

『先生……またしてくださいますか？』

『ああ、いいとも』

『先生のおちんぼ、京子もっとうほしいんです……』

『これは……とんだ生徒を見つけてしまったね』

『先生が去った後も、私は余韻に浸っていました。』



「んんっ……だっせ、だっせ……」

「もっと精液ちよーだっせ」

「京子の身体でおちんぽしてっせ……」

「おっ……マジかよ会っせ」

「ああ、誰でも参加OKだっせ」

「見るよ……教師も混ぜてるぜ……」

「校長……年から年してマイツカヤ……」

「んんっ……ちんぽくっくっすっせ……」

「京子……おっせ、おっせ、おっせ……」

「さっせ……京子の口のロロアッアッおちんぽしてっせ……」



『うっ……イっく……うっ』

「んっ……んっ……んっ……ちゅっ……ちゅっ……ちゅっ……へっ……へっ……へっ……」

「おちんぼ汁おいしっ……」

「もっと飲ませて……次……誰か来て……」

『あの……双葉……ボク……』

「早く……早くおちんぼ出してしゃぶらせろっ……」

『ボクお金がなくて……』

「お金なんかいらなから……」

「精液ドビュドビュくれればそれでっ……の……」

『えっ……で……』

「ちゅっ……うん……うん……おちんぼち込んでっ……」



「挿れるぞ……んんっ……」

「んあっ……おちんぼきたあ……太くて固いの来たあっ……」

「動いてえ……ちゅっ……ちゅるるっ……たくさん動いてえっ……」

「あっんんんっ……やんっ……あううう……ぢゅるるっ……」

「どうだ？ 代わる代わる男に犯される気分は？」

「最高……おちんぼたくさん京子を犯してえっ……」

「おちんぼでたくさん京子を犯してえっ……」



『イクっ……』

『びゅっびゅっって、京子の顔に精子がかかっている……』

『ザーメンで京子の顔汚されちゃってる……っ』

『んっ……ちゅっ……おいらしい……ザーメン美味しいのお……』

『んんんっ——！濃厚くて美味しいの、たくさん出てる……っ』

『んんっ……ちゅーっ……んんっ……』

『んんっ……ぐっぐっ……んんっ……いぢぞうなま』

『次……次の人来てえ……っ』

『くっ……俺そろそろイきそう……』

『俺もだ……双葉の手コキ、半端ねえ』

『あうっ……2人とも……ひゃうっ……京子の顔にたくさん出してね……』

『もっと……もっと精液で京子を汚してえ……っ』

『もっとおちんぼ来てえっ……っ』

『出る……っ』

『俺も……イクっ……っ』



「んああっ……!! 京子のおまんこにたくさん精液出てるのっ……っ」

「中出し気持ちいい……んんっ……京子もイっちゃう……」

「んんんんんんっ……」

「しゅごいのおまんこ、ひくひくしてるのお……」

「ザーメンの海に溺れそう……幸せなの……」

「もっともっとお……京子の穴におちんぼ出し入れしてえっ……」

「ほ、ほんもっらかな……」

「俺もさせろっ」

「来て来てっ……京子に精子恵んでえっ……」

「もっともっと中出し、ザーメンシャワー浴びせてっ」

「おかしくなるぐらに突らてっ……」



「来てっ……めちやくちや下してえっ……んんんっ……!」

「おちんぼいいのお……固っのお……」

「ピンピンおちんぼ気持ちいいのお……」

「おまんこかき回され気持ちいいのお……っ」

「ズポズポ犯してえっ……おまんこ気持ちいいのおっ」

「会長、舌先でペるペるして」

『金玉触って、転がしてくれ』


「はいよお……みんなのお願い、全部叶えてあげる……」

「だからサーメン……精液ちよーだい……」

「濃くて美味しいの、たくさん飲ませてえっ……」

「ああ……ダメえー! おちんぼの臭いでえ……イク……イク……」

「んんんあああああっ……」



「んんんっ……中出しされて……精液ぶっかけられてる……」  
「精液まみれ……この匂い……最高っ……っ」  
「こんなにたくさん……もつたいない……べろっ……ちめくっ……」  
「もつと……もつと精液ちようだい……もつと京子を犯してえっ……」  
「おい会長。兄貴がやりたいって言ってるんだけど」  
『こっちは大学生の従兄弟が』  
『近所のおっちゃんが噂聞いて紹介してくれって言ってて』  
「うん……いいよお……京子はみんなの京子なの……」  
「好きなだけ犯して、気持ちよくなって……」  
「その代わり、たくさんZ精液恵んで……」

「京子のいけないおまんこに、溢れるくらい精液注いでえっ……」

「ねえ……もう終わり……っ？」

「まだこんなに人がいるのに……どうして？」

「まだ京子のおまんこでSEXしてない人、早く来てえっ」

「京子にザーメンくれないとダメ、なんだから……っ」

「さあ、自己紹介してみようか？」

「はい……んっ……んあっ……」

「学校名と名前を教えてくださいませんか？」

「(ド)ー(学)園2年生の双葉京子です……んんむっ……」

「今着ている制服は、学校のかな？」

「はい……あっ……んあっ……学校の制服です……」

「可愛い制服だね。京子ちゃんにすごく似合ってるよ」

「あ、ありがとうございます……んんむっ……ますっ……」

「年はいくつかな？」

「(ド)ー(歳)になったばかりです……ひうっ……めめううっ……」

0:00 [0:30]

REC

MENU

「そっかそっか。初体験はいつ？」

「はじめてSEXしたのは……1ヶ月前、ですっ……」

「1ヶ月？ そうとは思えない程、腰つきが良いねえ」

「ありがとうございます……んんむっ……」

T W



REC





S



XP

REC



D

A.

「初体験の相手は？」

「同じ学年の……男子、ですっ……」

「恋人？」

「いえっ……ただの、同級生ですっ……」

「借金を返すために……身体を買ってもらったんです……んんっ」

「健気だねー、京子ちゃん」

「趣味はなんですかー？」

「趣味は……SEXです……んんっ……はうっ……」

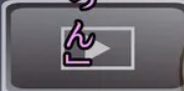
「おちんぼズボズボしてもらうのが大好きです……っん」

「あと、精液飲むのも大好きですっ……」

REC

0:00:00 [0:30]

MENU



D  
i.A.

「そっかー。それじゃ、今何をしているのか説明してくれる？」

「はいい……今、下からおチンポで突き上げられていますっ……んんっ」

「この人たちは……お父さんに、お金を貸してくれてる、

親切な人たちですっ……」

「お金を返せないの、京子が身体で返しますっ……んんっ……」

「そっかー。こんなこと京子ちゃんにさせるなんて、ひどいお父さんだね」

「ちがいますっ……お父さんが借金してくれたおかげで、

京子は幸せですっ……」

00:00 00:30

ENU

REC

KP



S

「毎日おまんこにおちんぽ突っ込んでもらって、

毎日種付けしてもらえますっ……」

「全身ザーメンまみれで幸せですっ……んんあっ……」

「お父さん……ありがとうございますっ……」

「お父さんのおかげで、毎日しあわせですっ……ひぐっ……」

「オッケー！ この映像はあとでお父さんに送っておこうね」



『それじゃ京子ちゃん、今おじさんとSEXしてるけど、おちんぼは足りてる?』

『全然足りないのっ……たくさんおちんぼ欲しいのっ……っ』

『おまんこはもうおじさんのちんぼ啜えてるから、』

『手と口でいっ奉仕してあげようか』

『うん……するっ……たくさんするのっ……』

『でも京子、興奮しちゃうと大きな声出しちゃう……』

『大丈夫、京子ちゃん。ここはおじさんの私有地にある倉庫だからね』

『いくら大声出しても誰にも気づかれないよ』

『そうなの……? だったら、たくさん楽しめるね』

『そうなんだ。だから、他のおじさんたちを悦ばせてあげよう』

『うん……みんな、来てっ……』

[0:30]

MENU

REC

▶

T  
W

S  
XP







D.A.

「んんっ……ちゅっ……ぢゅるるるるっ……んんっ……ぢゅっ……  
「おじさんの濃くて美味し……京子幸せを……」  
「京子ちゃん、お顔に出したらからシゴいてくれるっ」  
「ふあい……んっ……ぢゅるるるるっ……ぢゅっ……ぢゅっ……  
「出して……らっばっ出してっ……」

「京子のお顔に、ドロドロのザーメン汁たくさん出してっ……」

●REC

REC

MENU

0:00:00 [0:30]

「京子ちゃんぐくよ……うっ……」

「んんんっ……！ 熱いザーメン汁、たくさん出てる……」

「美味しい……ザーメン美味しい……」

「んっ……もったいない……全部飲ませて……」

「ちゅっ……ぢゅるるるるっ……」



XP



D  
i.A.

「それじゃあ激しくいくよっ……!」

「あう……んんっーあうっ……はうっ、んんっー!」

「下からちんぽで激しく突かれて……あうっ……んんあうっ……」

「子宮がきゅんきゅんいつてる……んんっ、ひやううっ……」

「精子欲しいって、きゅんきゅん鳴ってるのっ……」

「おじさんのザーメン……京子に出してえ……」

「熟成ザーメンで京子の子宮を満たしてえっ……」

「京子の淫乱まんこ種付けしてえっ……」

0:00 [0:30]

MENU

REC

S  
XP

T  
W

▶





S



XP

REC

D

i.A.

T  
W



REC

「京子ちゃん……イくよっ……」  
 「来てえっ……んんっ……あぁっううっんんんっ……」  
 「精液たくさん出てるの……っ」  
 「ドクドクって、京子のおまんこの中で脈打ってるっ……っ」  
 「お腹の奥、すごい熱いの……やけどしちゃらそうなの……っ」  
 「おじさんと一緒にイけて、京子しあわせ……」  
 「しあわせ……なの……っ」

0:00:00 [0:30]

MENU

D  
i.A.

「京子ちゃん、大丈夫？」

「うん……だいでょうぶ、なの……」

「京子ちゃんどう？ 知り合いたAV作ってる会社があるんだけど」

「えー……ぶい……ぶい……」

●REC

S  
XP

0:00:00 [0:30]

REC

MENU

「毎日好きなだけSEXができるんだけど、どう？」

「好きなだけ……？ 毎日……？」

「やる……京子、やる……っ」

「誰でもいいから、京子をたくさん犯して……」

「お金なんていらない……」

「たくさんたくさん、チンポで京子を犯してえっ……」

▶